おかげさま



お盆の由来

 \bigcirc

 \bigcirc

お盆は、正しくは「盂 蘭盆」といい、古代イン ド語のウランバナ(逆さ 吊りの意)を漢字にあて はめたものといわれます。

「盂蘭盆経」という経 典に説かれた教えをもと に、盂蘭盆会(盂蘭盆法 要)が行われてきました。



一般に言われる「お盆」という呼び方は、この盂蘭盆会のことを指しています。

仏弟子目連が、お釈迦さまの力を借りて、餓鬼道(逆さ吊りに相当する苦しみの境界)に堕ちている母親を救い出したという盂蘭盆経の物語とともに、中元という中国の習俗や古来よりの日本人の霊魂観などが混り合い、七月十三日~十五日(月おくれの八月十三日~十五日)の三日間、盂蘭盆会が勤められてきたのです。それは、日頃忘れている先祖を偲びうやまい、自分たちの「いのち」の意味に思いを致す日であったといえましょう。

浄土真宗のお盆とは

地方によっては、お盆の三日間先祖が帰ってくるので、それを供養するといい、精霊壇をつくり、迎え火、送り火をする風習があります。浄土真宗では特にそのようなことはしません。ご先祖さまは、お盆の時だけ帰ってきて子孫の供養を受けるような方々ではないからです。

浄土真宗のお盆について、梯實圓師(大阪市広台寺前住職・本願寺勧学) は次のように述べています。 お盆を迎え、み教えを聞き、すべての人々をわけへだてなく救うという阿弥陀さまの願いのなかで、すべてのものの「いのち」を確認していくならば、亡くなった方は阿弥陀様のみ手に抱かれてお浄土へ往かれた方であり、今はかえって私どもを見守り、導いてくださっている方々であることもうなづけるようになってきます。亡くなった人は決して不幸になった人ではない、お浄土へ帰らせていただいて、本当の安らぎをえている人だということを知らされ、はっきりと確認していくことです。そして、死別は永遠の別れではなくて、やがてまた同じ浄土で再会することができるのだということを信知していくことが大切です。

浄土真宗のお盆とは、お浄土へ往かれた方と、この現世で生をいとなむものとの「いのち」が交流し響き会う「いのち」の法要です。

樹心会編「願いを生きる」より

エッ、ご覧になったことありますって。(当然という顔をしながら)そうでしょう。毎年の盂蘭盆会法要の案内の裏面に、毎年、勿論今年も印刷して

爺婆孫孫

急に大所帯になって、一ヶ月。この 人数で住むように出来ていない家に、

鮨詰め状態。その賑やかなことって(上方落語でしたらここでお囃子が賑やかに)……(冷や汗)。

年上の桜耶は、晨朝の「お正信偈・念仏和讃六首引」を大きな声で お勤めします。二番目の純真は、タッチの差で、お参りだけします。

「三つ子の魂、百までも」とも「門前の小僧、習わぬ経を読む」とも 申します。記憶力もかなり怪しくなってきた爺の頭でも、経文(但し 音だけではあるが)が浮かんでくるんです。漢字どころか、平仮名も

怪しい頃から親しんできたからね。

親さまに手の合わせられる人に、親さまにお礼申させていただける人に育ってくれよ。爺婆の願い。間違いない人生を、人生を全うさせていただくためにも。

ありますよね。お寺からのご案内は、大切に大切にとお仏壇の引出しに直行なんてことのないように、よくご覧になってください。

今年もまた、素敵な有り難い方々と別れを惜しみ乍見送らさせていただき、 迎える初盆。尊いご縁を有り難うございます。

- 1家ごと灯す燈籠の 火影に法の道したい 残れる逝ける諸共に 相会う今日のまつりかな
- 2流れし時は返らねど 生い増す苔のした深く 真心通い年年に 面影さそうまつりかな
- 3形見に頼み頼まれつ 過ぐしし月日呼び返し 香華の前に寄り集う 思いで多きまつりかな



明石狸

後で確認して肝を潰した。狸の肝は売れないけど、 潰れても困る。17日の夕刻、あけしの山に火柱が



立ったそうな。山にはよく火柱が立つことはあるが、選りによって、本堂の鬼瓦がすっ飛んだ。 よくまあ火事にもならずに、屋根瓦と電気関係 の故障だけで済んだもんだ。

♪その時弥陀は少しも慌てず、摂取不捨のお 仕事を……♪

鬼瓦を下ろしたら何処かに飾ろうかな、霊験あらたかな「あけしの身代わり鬼瓦」「鬼瓦が身を挺して護った弥陀如来」…。

親鸞さまは、呪いや迷信の類いに頼るな。頼る必要のないのが無碍の一道・念仏の歩み、と言われた。でも、ご本尊様が無事であった喜びを少しでも多くの人に、なんていちゃって、金儲けの話?? 一口乗ったら、なんて、欲深坊主は地獄直行の発想ばかり。

これから、足場を組んで大掛かりな工事が始まる予定です。



あけむ あれこれ



夏の暑さとともに、一斉に鳴き始める蝉。今年はまだ全てを聞いていない が、ニイニイゼミ・アブラゼミ・ヒグラシ・ミンミンゼミ・ツクツクボウシ。 何年か前には足利でクマゼミに遭遇したこともあった。

境内にカナメが多かったときは、アブラゼミ・ニイニイゼミの脱け殻がよ く見られた。

セミは、卵→幼虫→成虫という不完全変態をする虫である。ちなみに、完 全変態とは、卵→幼虫→蛹→成虫と変態すること。生命の儚さの代表のよう に言われ、成虫の期間は1~2週間ほどと言われていたが、これは成虫の飼 育が困難ですぐ死んでしまうことからきた俗説で、野外では一か月ほどとも 言われている。さらに、幼虫として地下生活する期間は3から17年(アブ ラゼミは6年)に達し、短命どころか昆虫類でも上位に入る寿命の長さをも **つ**。

虫が怖くて、やっと、何故かダンゴムシを捕まえられるようになった幼児 が、虫籠と虫取り網を持って大冒険。意気揚々と引き揚げてきた、その手に した籠に、セミの抜け殻。やっと捕まえたようです。

セミの抜け殻は中国で古くから蝉退(せんたい、または、ぜんたい)とい

う生薬として使わ れており、止痒、 解熱作用などがあ るとされる。ちな みに日本で使われ る蝉退配合の漢方 方剤に消風散があ り、保険適用処方 でも服用できる。

